

桂スチール(岡山)

新工場が完成

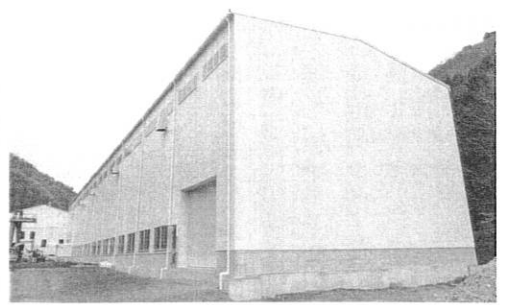
第3工場内に新事務所建設へ

ビルトH形鋼の最大手メーカーとして知られる桂スチール(本社・兵庫県姫路市、三木桂吾社長)はこのほど、第2工場(岡山県備前市吉永町岩崎)の隣接地(敷地面積約2万5000平方メートル)に新工場および分工場を建設、現在、設備を新設中で、今月の本格稼働を目指している。また、第3工場(同市三石)にある事務所棟を解体して、4階建ての新事務所を建設し、ここに第1工場(同市吉永町神根本)事務内にある営業本部、生産管理、品質管理などのおもな部署を移管し、今年9月から業務を開始することを明らかにした。今回の新工場は、土木やプラント関連向けの加工主体を目的に建設されたもので、建築・橋梁向けの加工も手がける。

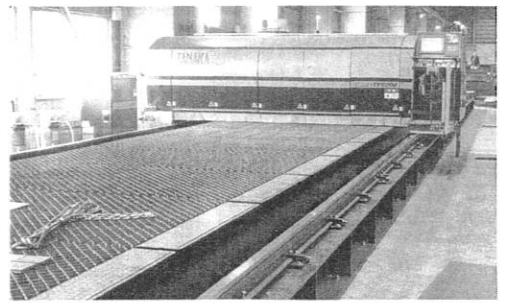
新工場はスパン18メートル×長さ80メートルの規模で、40メートルの天井クレーンに、3電極の溶接ラインや溶接形鋼組立装置、フランジ歪矯正装置などを新設。また、分工場はスパン18メートル×長さ72メートルの規模で、おもに平板用の孔あけ機や開先加工機を新設し、平板製品の置き場としても活用する方針だ。

そのほかの設備投資では、ここ数カ月で、第3、第5工場にファイバーレーザー機各1台(CO<sub>2</sub>レーザーの更新)を設置。玉野工場(玉野市宇野)には、プレナーを新設。「ファイバー機の活用で、ランニングコストが6〜8割削減され

た」(三木社長)と話す。また、完成した新工場は、今年10月末までをメドにスパン22メートル×長さ75メートル(垂直方向)を延長し、ここにBHの一次加工用の切断機(25000×800)と孔あけ・開先加工・スカラップ加工用の複合機(25000×1000)を各1台新設(いずれも海外製)する。現在、同社のビルトH加工量は月間6500ト。板の在庫量は約2万3000ト(半製品も含む)。在庫の内訳はSN材が6〜7割で残りがSM材。一次加工は月間約4000トペー



完成した新工場



第3・第5工場に導入したファイバーレーザー機

ス。受注エリアは、関東6割、関西2〜3割、中部1割、とその他。

同社はここ数年で、各工場を整備。昨年には兵庫県姫路市内に「自社の物流機能を強化することはもちろんだが、とくに重量構造物など製品置場に苦慮している顧客への対応の強化が重要な目的」(同)として、スパン20メートル×長さ200メートルの製品ヤードを2棟建設(約9000平方メートル)し、ここに30メートルの門型クレーンを2基設置している。また、4年前には、母材やビルトHの長尺・幅広製品への対応強化と海上輸送の効率化を図るために開設した玉野工場では、専用岸壁を備え、

顧客から要望されるサイズ、長さのビルトH供給体制を整えている。

同社にとつての課題は、顧客満足度を常に追求していくなかで、その裏付けとして品質管理体制を強化し、社員教育をより充実させることにある。その教育現場として、ものづくり道場の建設やものづくり大学の活用がある。「社員のレベルにあつた教育プログラムを作成し、常に社員一人ひとりがものづくりへの誇りと品質向上を目指した教育を主管においている。今後とも顧客ニーズの掘り起こしを行い、顧客に高品質な製品を安定供給していく」(同)としている。

工場では、専用岸壁を備え、